

うえるたまだより



平成26年度 冬号

災害について考える特集

1. 17 阪神淡路大震災発生から20年が経ち、3. 11 東日本大震災発生からもうすぐ4年が経とうとしています。被災された方々のご苦労はなかなか想像できるものではありません。

災害に備えて、また被災された方の支援について私たちができることを考えたいと思います。

活動紹介コーナー！

本庄高校 TEAM 柏

東北復興ボランティア

東北の復興に対して、授業の一環で行われた白熱教室での「私たちにできることはあるか？」との問いに、「今しかわからないこと、行くことでわかることがある！」と考えたのがボランティア活動のはじまりです。

2011年夏、第1次ボランティア隊が仙台市で活動し、そこで受けた被災地を目の当たりにした衝撃から回を重ね、2014年夏には第6次ボランティア隊が宮城県山元町で活動しました。



活動して感じたこと

『実際目にした被災地の現状は報道では語られていない。

知った者には知らせる責任がある。』

2013年夏、第5次隊は南三陸町でがれき撤去しました



災害ボランティアセンターってなんだろう？

災害ボランティアセンターは、災害時に被災者を支援する目的で、ボランティアの方々が力を発揮できるよう開設されます。被災者が一日でも早く日常を取り戻せるようにお手伝いをします。

阪神・淡路大震災では多くのボランティアが被災者の力になりました。ボランティア元年と言われています。と同時に、多くの課題があることもわかりました。そして、東日本大震災発生。被災者に向き合い、寄り添いながら活動は続いています。

災害は時と場所を選びません。日ごろの備えが大切です。が、本当に困った時には助け合える人がいることも覚えていてください。



平成23年7月の陸前高田市での活動の様子。海岸の側溝の泥かきをしています。



平成25年9月に越谷市で竜巻により大きな被害がありました。



越谷市災害ボランティアセンター受付の様子

東日本大震災を忘れないで！

この手作りのお地蔵様は、現在いわき市の仮設住宅に住んでいる方が騎西高校に避難していた時にお世話になったさいたま市のボランティアさんに贈ったものです。

東日本大震災の被災者はいまだ苦しんでいることを忘れないで、と当センターに思いを託されました。



～釜石市を訪ねて～ 平成26年12月

釜石駅前のロータリーは整備されていましたが、被害を受けた地域は嵩上げを中心とした工事で重機が入っており、目に見える「復興」にはまだ時間がかかるように思われました。

現在もなお市内66か所の仮設住宅に被災された方々は暮らしています。



どんなに元気に見える方でも、明日への希望がなかなか持てずに時に不安になったり生きているのが辛くなったりすることもあるかと思います。「被災地の現状を見てほしい」「風化しているんじゃないか」被災地で聞かれた声です。ボランティアの第一歩は『知る』ことではないでしょうか。

埼玉県ボランティア・市民活動センターからのお知らせ

「うえるたまだより」では、「載せてほしい情報」「もっと詳しく知りたい情報」を大募集中です。電話、メール、FAXでお知らせください。

【編集後記】被災地に行かなくちゃできない支援、行かなくてもできる支援、支援を支える支援…被災地支援にはさまざまなかたちがありますね。できることを考えるってとても大事だと思います。

【発行・問い合わせ先】埼玉県社会福祉協議会 埼玉県ボランティア・市民活動センター

TEL:048-822-1435 FAX:048-822-1449 E-Mail:vc@fukushi-saitama.or.jp

情報大募集！！

